

広大で鋼構造 実験見学会

建築学会中国支部

【東広島】日本建築学会中国支部は16日、広島県東広島市の広島大学で「2017年度・鋼構造実験見学会」を開催、鉄骨フレームケーター、建築技術者、学生など約40人が参加した。共催は日本建築構造技術者協会と広島県鉄構工業会。

説明する田川教授



実験テーマは「高力ワシサイドボルトを用いた柱梁接合部の大振幅載荷実験」。見学会では同大工学部の田川浩教授が接合部の側面に

補強鋼板を溶接した試験体に、揺れを起し負荷をかけて性能確認する実験を実施した。

同教授はこれまでも高力ボルト接合の研究を行ってきた。背景には阪神・淡路大震災で鋼構造建築物において柱梁溶接接合部での亀裂や破断が多く発生したことがある。震災以降、溶接を極力減らした高力ボルトでの接合方法の研究を進めてきた。

今回の実験ではこれまでの実験で試験体に発生した亀裂などを防ぐために補強を行うとともに、無補強試験体と比較実験を実施した。結果、過去の試験体よりも高い補強効果が確認できた。